

# 嵐山町健康マラソン大会



1,000m (小学生・ファミリー) 入賞者



1,000m (一般男子) 入賞者

12月16日、嵐山町総合運動公園をメイン会場として「第36回嵐山町健康マラソン大会」が開催されました(主催・嵐山町体育協会)。町内外から約500名が参加し、7つの大会新記録が生まれるなど、大いに盛り上がる大会となりました。



駅伝 (中学生) 入賞者



駅伝 (小学生) 入賞者



●1,000m(小学生男子)：優勝 岡田碧馬(宮前小学校) 3分32秒、2位 芝原啓太(東松山陸上スポーツ少年団) 3分34秒、3位 高山立葵(東松山陸上スポーツ少年団) 3分35秒／●1,000m(小学生女子)：優勝 矢野柚紗(東松山陸上スポーツ少年団) 3分33秒 [大会新記録]、2位 濱田亜妃(月の輪小学校) 3分33秒、3位 西幅万里乃(東松山陸上スポーツ少年団) 3分35秒／●1,000m(ファミリー)：優勝 芝原美寛・芝原有宏 タイム差0秒、2位 大木主・大木克彦 タイム差1秒、3位 國分美由紀・國分颯人 タイム差3秒／●駅伝(小学生女子)：優勝 東松山陸上あゆみん 20分14秒 [大会新記録]、2位 菅谷小B 21分55秒、3位 菅谷小D 22分22秒、区間賞 1区 野口愛音(東松山陸上あゆみん) 4分56秒、2区 曾我部優来(東松山陸上あゆみん) 5分7秒、3区 鈴木星南(東松山陸上あゆみん) 5分13秒、4区 武田陽菜里(東松山陸上あゆみん) 4分58秒／●駅伝(小学生男子)：優勝 東松山陸上まっくん 18分34秒、2位 菅谷小A 18分36秒、3位 サッカースポーツ少年団A 20分35秒、区間賞 1区 片桐琢斗(菅谷小A) 4分30秒、2区 林謙雄(菅谷小A) 4分31秒、3区 澤田修也(東松山陸上まっくん) 4分33秒、4区 根岸龍之介(東松山陸上まっくん) 4分26秒／●駅伝(中学生女子)：優勝 滑川中陸上部女子A 27分20秒、2位 滑川中陸上部女子B 29分44秒、3位 白い山の中の駅伝 29分57秒、区間賞 1区 山中恵(滑川中陸上部女子A) 5分24秒、2区 豊田麻由(滑川中陸上部女子A) 5分42秒、3区 石井伶奈(滑川中陸上部女子A) 5分24秒 [大会新記録]、4区 長谷心優(滑川中陸上部女子A) 5分13秒 [大会新記録]、5区 市塚愛理(滑川中陸上部女子A) 5分37秒／●駅伝(中学生男子)：優勝 滑川中陸上部A 33分31秒、2位 白い山の中の駅伝 33分37秒、3位 へっぽこ4人とフライング 34分03秒、区間賞 1区 磯翔真(へっぽこ4人とフライング) 6分19秒、2区 平田城太郎(滑川中陸上部A) 6分36秒、3区 草野魁人(滑川中陸上部B) 6分39秒、4区 西村悠汰(白い山の中の駅伝) 6分38秒、5区 川田悠斗(へっぽこ4人とフライング) 6分29秒／●1,000m(一般女子)：優勝 矢野杏羽(東松山陸上スポ少松山南中) 3分19秒 [大会新記録]、2位 加藤優星(菅中女バス) 3分38秒、3位 小森咲和(菅谷中学校) 3分41秒／●1,000m(一般男子)：優勝 細田誠(嵐山走友会) 2分49秒 [大会新記録]、2位 磯翔真(東松山陸上スポ少松山北中) 2分55秒、3位 川田悠斗(東松山陸上スポ少松山東中) 2分57秒／●5,000m(一般男女)：優勝 細田誠(嵐山走友会) 15分56秒 [大会新記録]、2位 山口和男(東松山陸上コーチ) 16分58秒、3位 吉野聡司(嵐山走友会) 17分9秒 (敬称略)

# 教育の広場



## 嵐山幼稚園

### 遊びの中から 学ぶこと

もうすぐ入園・進級から1年が過ぎようとしています。幼稚園に入り、たくさん遊びを経験してきました。『遊びを通して保育』『季節を大切にしたい保育』『集団だからできる保育』等を通して、子供たちは多くのことを学び、さまざまなことを得てきました。嵐山幼稚園では、『遊び』を大切に、園児自ら進んで遊びに取り組み、遊びの中で学んだり、経験していくことを大切に、日々の保育を実践しています。

入園当初は、初めての幼稚園生活に不安を感じていた子供たちでしたが、次第に安心して楽しく幼稚園生活を過ごすようになってきました。さまざまなことに興味をもち、たくさん友達や温かい先生の言葉に接する中で「なんだろう」「おもしろそうだな」と興味をもって活動するようになりました。こうした姿を通して、『遊び』が活発に行われ、子供たちの気持ちが大きく育っていきます。



季節ならではの『遊び』も大切に使っています。春には、あさがおの花を使って色水をつくったり、夏には裸足になって砂遊びや水遊びを楽しみます。秋になれば、どんぐりなどの木の实を使って転がしたり、コマを作ったり遊びます。冬には、氷が張る様子を見たり、どうしたら氷が張るかを試したりする姿も見られます。子供たちの興味関心がそそられ、「どうしてだろう」「何だろう」と思えるような環境を用意していくのが教師の役目だと考えます。



年長にもなると子供たちは誘い合ってさまざまな『遊び』を進めていきます。ドッチボールなど、友達がいるからこそできる『遊び』もあります。その中で友達が応援してくれるからできた、やってみたらできるようになったという経験を通して、これから経験するであろうさまざまな壁にも乗り越えていこうという気持ちも育っていきと考えています。



嵐山幼稚園では、『遊び』を通して保育を大切に、子供たちが自ら考え、行動できる人になって欲しいと願い、これからの子供たちの成長を見守っていこうと思えます。

問合せ 嵐山幼稚園  
62-2108